



## 第2回 木村奈保子の 音のまにまに

今回は篠笛、和太鼓、三味線を奏でる井上兄弟の“AUN”。ただ単に邦楽に留まることなく、アコースティック楽器とコラボレーションを行ったり、「和」の新しいサウンドを生み出しているユニットだ。

### AUNによる和楽器革命

海外にいと、急に日本の文化をについて聞かれ、あたふたすることが多い。学生時代は文化交流団でホームステイしたのだが、そのときに役立ったのも、華道、茶道、日本舞踊のたしなみ。特段才能もない私でも、あちこちでの会合、パーティで披露を促され、恥かしながら喝采を浴びていた。こんなことならもっと本気で芸を磨くべきだった……！



当時、アメリカ民謡研究会に入部していたためギターやバンジョーなども練習していたが、下手だったからか、女子だったからか理由は忘れたが、交流団ではコーラス隊と舞踊担当。もっぱら受けるのは、日本の童謡だった。

いつか和楽器の演奏で外国人をざんぷんと言わせる(?)のが私の夢の一つでもあったが、肝心の芸は身につけていない。そんな浅はかな感覚を思い出しながら、井上兄弟の“AUN”ライブは、まさに理想を実現させてくれた。



南青山にある曼茶羅での

ライブは、和太鼓を正面真ん中と左右にもデーンと構えたセッティング。厳かな太鼓の和の音に、篠笛のメロディが美しくドラマを奏でる。



井上公平が持つ三味線(グレー)

そして、だんだん洋楽の方向へと向かう頃には、会場が踊れるムードに。

出演者のAUNとは、鬼太鼓座出身で、独立後は篠笛、和太鼓、三味線を奏でる井上兄弟としてメジャーデビューし、世界ツアーではカーネギーホール

の出演まで果たしている双子のアーティストと鳴り物師のHIDEが組んだトリオ。ハンサムな双子の呼吸を見せるパフォーマンスに、お茶目な鳴り物師のキャラクターがマッチングして、バンドの魅力も十分だ。

和太鼓のショーは、人数による迫力、肉体わざや叩くスピードなどを競うようなステージものもあるが、AUNの舞台は、よりアートを目指している気がする。

一方、井上氏名付けるWacoustic(和・アコースティック)とは、和楽器とアコースティック楽器との融合音楽を意味する。他楽器とのコラボで和楽器の可能性に挑戦するのだ。

電気を使用しない“アコースティック”+和という組み合わせは、時代に逆行するかのようなアナログ感を思わせるが、逆の風もまた吹く可能性に満ちている。

また井上兄弟は“AUN J クラシック・オーケストラ”で、和楽器のオーケストラを結成し、「和楽器の再発見」を目指している。

なによりも、ルーツ(日本の音)を大切にしながら新しいスタイルを加えて進化する音楽は、まさに和楽器革命。

そしてサウンド革命。

AUNの双子ならではの“あうん”の呼吸も心地よいが、新しいサウンドを求めるチャレンジの過程を見るのが、ほんとうに楽しい。



井上良平が持つ三味線ケース(ブルー ツアー中)



NAHOK INFORMATION [www.nahok.com](http://www.nahok.com)

GERMAN fabric &  
JAPAN KIMONO  
fabric,  
Made in Japan



日本の美とNAHOKがコラボレーション！こちらは1点柄なので同じ柄はありませんのでご注意ください。NAHOKスーパーティルト+京都西陣織シルク使用。

